

## 成城大学所蔵・戦闘期極東国際関係史料一覧

田嶋信雄

筆者が成城大学で戦間期極東国際関係に関する各国の外交史料をマイクロフィルムの形で集め始めてから約5年が経った。この間、学部図書費、大学院図書費、大学図書費、文部省助成金など様々な資金を得て収集した史料はかなりの分量となるに至った。

これらの史料を多くの研究者に利用してもらうため、詳細な紹介論文を書こうとかねがね思っていた。が、日々の雑用にかまけ、いつ本格的な紹介が出来るやら皆目見当がつかない。そこで、窮余の策として、各マイクロフィルム・シリーズに関しこれまで言及されてきた論文の一部ないし宣伝広告の一部を拝借し、それらを継ぎはぎしてここに簡単な小文を物すこととした。あまりの安易さに汗顔の至りである。本格的な紹介は他日を期したい、と見栄を張りたいが、その予定は立たない。そのうち「史料紹介」ではなく「論文」の形で、史料を無駄にはしていないという証拠を提出できればと思う。

なお筆者はかつて「ドイツ所在日本関係史料」なる小文を書いたことがある（『国史大事典』第10巻、吉川弘文館、1989）。併せて参照いただければ幸いであるが、極めて限られたスペースのため、その小文もまったく不十分なものに止まっている。

### A ドイツ

#### ● National Archives and Records Administration; Guide to German Records Microfilmed at Alexandria, Va. 4 リール

いわゆる「押収ドイツ文書」のマイクロフィルム・コレクションは、大まかにいって、旧ドイツ外務省の文書からなる「ウォドン・ホール文書」（“T-120”という分類番号を持つ文書群）と、それ以外の諸官庁及び党機関・民間諸団体の文書からなる「アレグザンドリア文書」の2つのシリーズから構成されている。前者つまり「ウォドン・ホール文書」の検索道具が「ケント・カタログ」と呼ばれているものであり、後者すなわち「アレグザンドリア文書」の検索道具が「アレグザンドリア・ガイド」と呼ばれているものである。この2種類のガイドブック——もっとも、それぞれ相当のボリュームであるが——は戦闘期ドイツ外交史研究ないしはナチズム研究の必需品となっている。

ここに挙げたマイクロフィルムは、そのうちの「アレグザンドリア・ガイド」をマイクロ化したものである。したがってこれは「史料」という範疇には入らない。ナショナル・アーカイブスではかつてガリ版刷のオリジナル版を頒布していたが、現在では“T-733”の分類番号でマイクロ版に代わっている。

「ケント・カタログ」のオリジナル版も現在では人手が困難である。マイクロフィルム版を発売する計画もあるようだが、筆者は残念ながら未だ入手し得ていない。仕方がないので、必要な時には東大文学部西洋史研究室のオリジナル版を利用するようにしている。（ちなみに、これは本「通信」の読者にはすでに周知の事実であろうが、あの研究室は誰が入ってもまったく誰何される事がない。なかには「面倒だから頂いちゃおう」という誘惑にかられる人間もいると思うのだが）。

なお、「押収ドイツ文書」の概観としては、西川正雄「ドイツ現代史史料概観（1）（2）」、『史学雑誌』

第 72 編 (1963 年) 第 4 号及び第 6 号、が詳細を極める。

● **Records of Former German and Japanese Embassies and Consulates, 1890-1945,** 91 リール  
「アレグザンドリア文書」のうちの No.15 のシリーズ。(“T-179” という分類番号を持つ文書群)。「青島、漢口のドイツ領事館、ベルリンの日本大使館、横浜正金銀行ベルリン支店などの文書。日独関係、ドイツの対中国・満洲政策に関する史料。」(西川、前掲論文 (1)、55 頁。) なお、筆者はこの史料に関するガリ版刷ガイドのコピー版を所有している。

● **Records of NAZI Cultural and Research Institutions.** 550 リール (未完)  
「アレグザンドリア文書」のうちの No.16 のシリーズ。(“T-82” という分類番号を持つ文書群)。「ドイツの枢軸諸国との関係を示す文書。特に極東に於けるドイツの利害に関する文書が集められており、その出所は、軍部 (OKW、OKH など)、政府機関、日独協会などの団体、個人 (カール・ハウスホーファー Karl Haushofer など)、日本の在外公館、イタリア政府機関、更に、日独の商社・企業 (I・G・ファルベン、オットー・ヴォルフ、ラインメタル・ボルジッヒ、三井物産など) に及んでいる。」(西川、前掲論文 (1)、57 頁。) 全 550 リールのうちの 257 リールをすでに収集した。近いうちに残りを揃えたいと考えている。

● **Records of the German Foreign Ministry Pertaining to China, 1919-1935.** 31 リール  
このシリーズは、旧ドイツ外務省文書 (前述の「ウォドン・ホール文書」) のうちの中国関係文書を「スカラリー・リソース」社が複製・販売したもの。なお、「ウォドン・ホール文書」に関しては、西川前掲論文のほかに、佐藤健生「ドイツ外務省政治文書館とその文書の刊行状況」『現代史研究』第 29 号 (1979 年) をも参照。

● **Records of the German Foreign Ministry Pertaining to Manchukuo and Japan.** 38 リール  
上記「ウォドン・ホール文書」のうちの日本関係文書および「満州国」関係文書、とりわけ経済関係文書を、筆者が「ケント・カタログ」からピックアップし、ナショナル・アーカイブスに発注して購入したもの (筆者所有)。参考までにロール番号を記す。

49,163,178,337,384,391,398,401,737,1280,2421-2425,2561-2566,2613-2615,2640,

3262,3376,3420,3914. (以上日本関係)

170,2717,3477,3478,3502,3515,5668,5669. (以上「満州国」関係)

B イギリス

● **Japan Correspondence, 1900-1945.** 350 リール  
「開国以来、第二次世界大戦まで、英国は日本をとりまく国際環境の中で、最も重要な位置を占めつづけました。英国の側からの日本に対する関心も一貫して強く、この外交記録の中には、政治・経済・軍事

をはじめ、日本の近代史の実にさまざまな面に関する情報が豊富に含まれています。」

“The Japan Correspondence Files of the British Foreign office are fundamental sources for research on Anglo-Japanese relations. These files contain the dispatches, instructions, reports, memoranda, and other communications that flowed between the Foreign office and the British embassy and consulates in Japan and neighboring states. The documents not only give a detailed view of British diplomacy at work but also offer much information, gathered by a highly trained diplomatic corps, on internal political, economic, and social affairs in Japan. This microfilm edition, published through exclusive arrangement with the British Public Record office, faithfully reproduces the organization and content of the Foreign office Files.” (スカラリー・リソース社及び極東書店のカタログより)

1990年度に幸運にも文部省の設備整備助成金を得て購入出来た。これにより、当該時期の日本関係文書に関する限り、パブリック・レコード・オフィスを訪問する必要性は著しく減少したと言える。

なお、本シリーズ全体は1856年の分から始まっており、また1946年以降の分も続刊が予定されている。しかし成城大学では差し当たりそれらを購入する予定はない。

## C アメリカ合衆国

- Confidential U. S. Diplomatic Post Records, Japan; 1914-1941. 142 リール
- Records of the Department of State Relating to Political Relations between China and Japan, 1930-1944. 96 リール
- Records of the Department of State Relating to Commercial Relations between the United States and Japan. 1910-1949. 17 リール
- Records of the Department of State Relating to the International Affairs of Japan. 53 リール

「米国国立公文書館（NARA）が所蔵する国務省文書のうちから、日本の国内事情・日米関係・日中関係など、日本関係の公文書をマイクロフィルムに収録したものです。米国国務省の公文書は、米国外交文書（Foreign Relations of the United States）を編纂する際の基礎となった第一次史料です。したがってこの公文書には、米国政府が刊行した公式の外交文書に収録されなかった膨大な原資料を含む貴重な外交資料が網羅されています。また日米の外交関係に加えて、日中の政治関係に関する資料もかなりの量にのぼっています。この公文書は外交資料というだけでなく、米国側が入手した情報にもとづく日本の国内事情（政治・経済・産業・軍事・社会問題など）に関する豊富な資料を収めていて、日本研究にも不可欠の資料です。・・・」（スカラリー・リソース社及び極東書店のカタログより）

筆者が着任した時、成城大学はFRを所蔵していなかった。日本近代史やアメリカ政治外交史の専門家がいなかったためである。そこでまずFRを揃えようと試みたが、絶版のため予想外の困難に遭遇した。そうこうしているうちに入手する運びとなったのがこのマイクロフィルムである。学生に勉強させるにはもちろんFRの方がはるかに便利だが、教師の研究にはこのシリーズの方が便利である。（両方あればもっと良い）。当該時期の日本関係アメリカ国務省文書に関する限り、もはやナショナル・アーカイブスまで行く必

要はなかろう（必要があっても、まずこのマイクロフィルム版を見ておけば、仕事は著しく軽減される筈である。）

#### D 国際連盟

以上の各国文書のほかに、以下の国際連盟文書がマイクロ版で所蔵されている。

- League of Nations, Official Journal. London, Feb.1920- Dec.1939. Special Supplement. No. 1- 195.  
27 リール
- League of Nations, Treaty Series . London, 1920-1945. フィッシュ 1093 枚

筆者としては今後とも、事情の許す限り、戦闘期極東国際関係文書をマイクロフィルムで収集したいと考えている。差し当たり次のようなコレクションを念頭に置いている。

#### O Akten der Partei-Kanzlei der NSDAP.

- Captured German Records Filled at Berlin Document Center.
- Records of the Reich Ministry of Economics 1914-1945.
- Records of the Reich Ministry for Armaments and War Production 1925- 1945.
- Magic Documents.

ここで本『通信』紙上を借りて史料紹介を行ったのは次の2つの理由からである。

まず第一に、筆者としては、もちろん自分の研究のために上述の諸史料を収集したのであるが、言うまでもなくこうした史料すべてを活用するにはおのずから能力的及び時間的な限界がある。「第二次世界大戦史研究会」こそこうした史料を活用し得るメンバーが多いと考えた。

第二に、ここで紹介した史料の多くは、例えば東京大学とりわけ法学部や史料編纂所、あるいは外務省外交史料館などでも体系的な収集に努力しているものであろう。しかし、おそらくそうした公的な施設よりも、成城大学などの私立大学の方が外部の研究者にとって「融通がきく」と思われる。筆者自身、かつて東大法学部で部外者としてマイクロ史料を閲覧した経験があるが、率直に言って、あまり快適な経験とは言いがたかった。また、一般に公的施設では、発注システムや支払いシステムが煩瑣なため、マイクロフィルムから直接に史料のコピーを取るのが著しく困難である。

成城大学では1989年に新図書館が完成した。それと同時に、拡大ないし縮小プリントやトリミングまで自在に行える最新式の高性能マイクロ・リーダー・プリンターが2台導入された。大学図書館の間での紹介状があれば、もちろん誰でもこうした施設および上述の成城大学図書館所蔵史料を利用出来る。複写は原則的に利用者が行うことになっており、A3・B4が40円、A4・B5が20円である。

なお、言うまでもないことだが、筆者に御一報いただければ、利用に際し出来るだけの便宜をお計りしたいと考えている。マイクロフィルムは「原則的に」禁帯出であるが、専任教員にはある程度の融通もきくのが実情である。

問い合わせ先：

成城大学図書館 電話 03-3482-1181 (代)